

◆インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞◆

〈社会教育部門〉

「キッズリポーターシステム 動物園における参加型音声ガイドシステム」

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科（神奈川県）

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤5322

■実践事例報告の概要

本システムは、子どもたちが主体になって動物園の音声ガイドを作り、インターネット経由で配信する試みである。子どもたちが飼育体験を通して気づいたことや分かったことを音声で記録し、Web上で発表する。現在、音声をインターネット上で配信したり、園内の音声ガイドなどに利用したりしている。音声ガイド利用者は、携帯電話を使って自分の声をインターネット上に記録することもできる。

実践のねらい

環境学習や動物園での飼育体験などの体験型学習は、体験が一度きりになってしまったり、感動を他の人と共有するのが難しいなどの問題点がある。そこで、自分の体験を音声レポートという形に残し、インターネット上で広く公開することで、後で振り返ったり、他の人に自分の考えを伝えたりすることができるようになる。

声に出して他人に伝えるという作業は、表現力や伝える力を養うことにもつながる。また、他人と体験を共有することで他の学習者にも学習の契機を提供することにもなると考える。

特徴・工夫・努力した点

近年、子どもの遊びの中でふれあいが少なくなっているとの指摘がある。そこで、子どもたちをグループごとに分け、グループ単位で行動させるようにした。そうした結果、飼育体験や原稿作り、音声でのレポートなどの場面で子どもたちが助け合い、コミュニケーションを図りながら作業に当たる場面が数多く見られた。

また、この試みは情報モラルの問題にも焦点を当てている。自分の声が公の音声ガイドになるということで、子どもたちは「他者に伝える」こと

を意識し、責任を感じながら作業に取り組んでいた。結果、大変質の高い音声ガイドが集まった。

実践内容

7月27・28日の2日間にわたって小学校5・6年生19名を対象とした飼育体験サマースクールを開催し、その最後に音声ガイドの作成を行った。1日目は、はじめに事務所や飼料室、動物病院など普段では見ることのできない園内の施設を回り、動物解説員の方の解説を聞きながら園内を散策した。その後、参加者を5つの班に分け、一人が1種類の動物を担当するように分担を決め、ワークシートを使って動物の行動観察やスケッチなどを行った。

2日目の前半は班ごとに分かれ、飼育員や実習生と共に行動し、動物の餌やりや掃除など動物の飼育を体験した。そして最後に、2日間のまとめとして解説パネルの作成とレポートのための原稿作りを行い、音声でレポートを行った。これまでほとんど体験したことのない音声でのレポートに子どもたちは四苦八苦していた様子であったが、友だち同士で教えあい、互いに参考にしながら進めることで徐々に原稿を完成させていった。みんな何度も録音を繰り返し、やっとのことでレポートを完成させた。レポートには素朴な疑問や素直

な考えが反映され、とてもユニークなものに仕上がった。現在、インターネット上での音声配信と音声地図の公開を行い（資料）、子どもたちの学習に役立てられている。

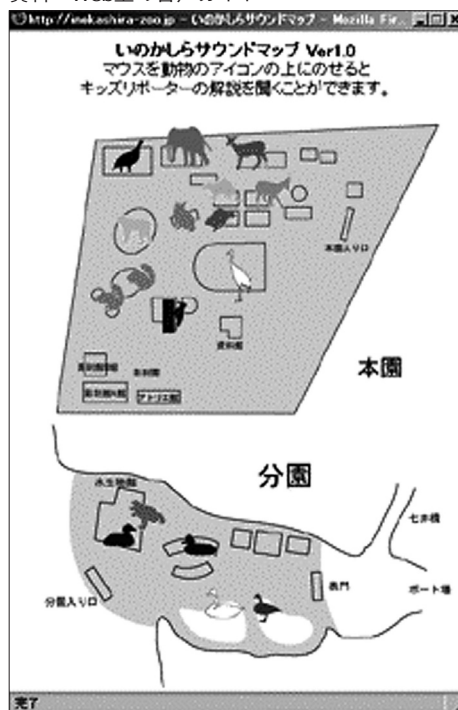
実践結果

サマースクール参加者に対して、動物への理解度や楽しさ、道具の操作性などに関するアンケート調査を行った。その結果、飼育体験の満足度を問う質問での評価が特に高くなった（5点満点中平均点が4.9）。続いて操作性（4.8）、過般性（4.6）、レポートによる理解度の向上（4.5）の順に続いている。飼育体験そのものが参加者にとって非常に有意義であり、音声レポートをしたことでより理解が深まったと推察できる。

サマースクール終了後、音声ガイドを携帯型音楽プレーヤーに収録し、同園で8月4日から10日にかけて無料貸し出しを実施した。42組の親子連れやグループが参加し、好評を得た。特にお子さんからの反響が大ききようであった。園内にはサマースクール参加者が作った解説パネルが各動物の前に掲示されており、そこに書かれている番号に音声ガイドの数字を合わせると解説を聞くことができる。また、音声ガイド利用者も携帯電話を使ってインターネット経由でWeb上に自分の声を記録することができる。解説パネルには、そのための電話番号も掲載されている。現在、Web上での音声配信と音声地図の公開を行っている。

音声ガイド利用者に対して、大人と子どもにグループを分けてアンケート調査を行った。大人の参加者では、操作性以外の5つの項目（理解度、興味、楽しさ、お勧め度、もっと参加したいか）において、「とても思う」と「そう思う」を合わせた割合が9割以上になった。大人でも十分に満足できる音声ガイドになったことが分かった。子どもの利用者では少々ばらつきが見られ、結果は、楽しさ（4.5）、理解度（4.4）、お勧め度（4.3）、興味（4.3）、操作性（4.0）、もっと参加したいか（3.4）の順になった。子どもが楽しみながら興味や理解を促進する音声ガイドを提

資料・Web上の音声ガイド



供することができた。

考察（今後の課題）

現在、インターネット上での音声配信と音声地図の公開を行っている。本プロジェクトサイトは利用者同士が意見を述べ合う掲示板の機能も備えている。

その他、携帯型音楽プレーヤーなどのデバイスがなくても携帯電話から音声ガイドを聞くことができるよう、携帯電話用の音声ガイドをインターネット上で公開している。園内のQRコードから携帯電話用サイトにアクセスすることができる。これによって携帯電話を持つ誰もが子どもたちの音声ガイドを利用することができる。現在は上位機種向けになっているが、今後利用できるキャリアを広げ、より多くの人が利用できるようにしたいと考えている。

その他の課題として、HTML上でトラックバックなどの機能を拡張することで、オンラインで議論が行えるような場を整備していきたいと考えている。